

2022年1月23日 午前礼拝  
「花嫁の清」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

Iヨハネ 2：29-3：3

もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずです。

私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。

【説教要約】

①愛と義の関係

もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずです。

Iヨハネ 2：29

神様について、もし一言で表わすとしたらどのような言葉になるでしょうか。「キリスト教の神は愛の神だ」とよくききます。

このIヨハネでも、ずっと愛について見てきました。しかし、神様と神様の愛について本当に知るためには、「義」について知っていなければ、本当に分かることができません。

「義」とは、正義の「義」ですが、「正しいこと」という意味です。何が正しいことなのかを知らなければ、本当の愛も分からないのです。

旧約聖書の律法は、まさに「正しいこと」の表現です。一番有名な十戒を取り上げますが、ここには

- ①唯一の神様以外、あってはならない。
- ②偶像を造ってはならない。
- ③神様の御名を軽々しく扱ってはならない。
- ④神様との時間を聖別しなければならぬ。
- ⑤父と母を敬う。
- ⑥殺してはいけない。
- ⑦姦淫してはいけない。
- ⑧盗んではいけない。
- ⑨嘘をついてはいけない。

⑩他人のものを欲しがってはいけない。

ということが示されています。①－④は神様に対する正しいこと、⑤－⑩は他人に対する正しいことです。

このままだと、特に他人に対する律法は今日の法律でも見ることができます。⑤は今日ありませんが、⑥は殺人罪、⑦は強姦罪、⑧は窃盗罪、⑨は偽証罪や詐欺罪などです。現代の法律でも、破ることは単にルール違反をただけでなく、誰かに害を与えたことが分かります。誰かを傷つけ、愛さなかったということです。

しかし、イエス様はこれらの律法は行ないだけの問題ではなく、心の問題であることを明らかにしました。

**「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。**

しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会議に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

**『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。**

しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」

**マタイ 5 : 21 - 22, 27 - 28**

聖書は、罪を犯さない人は一人もいないと宣言します。すべての人が神の法律を破り、神様と他人を傷つけているのです。

愛は、感情としても現れますが、最後は行ないとして現れるのです。言葉でいくら「あなたのことを愛している」と言っても、愛を行っていないなら証明できないのです。

パウロは、この心の問題で苦しんで、叫んでいます。

それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。しかし、罪はこの戒めによって機会を捕らえ、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。

それは、戒めによって機会を捕らえた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。

私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。

**ローマ 7 : 7 - 11, 15**

律法は正しいものであることが分かります。しかし、律法を知った時、自分の心に罪があることを知ったとパウロは言います。神が正しい方であることは、律法を見れば明らかなのです。律法は神様の喜ばれる心を書いてあるからです。しかし、その正しいこと、神様が喜ばれることができない。むしろ神様に反抗する罪が心にあったのです。

**私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。**

#### ローマ 7 : 24

神様はこのように、正義の方なので、この方の正しさを知れば知るほど、自分がみじめになっていくのです。すべての人はこの罪のために地獄に行くのです。

では、神様を知ることが絶望に突き進むことなのでしょうか。このローマ 7 : 24 の続きでパウロは言います。

**私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。**

**私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。**

#### ローマ 7 : 24 - 25

自分では自分のことを救えません。救いようがない罪の中にいる私たちを、イエス様がいのちを捨てて救ってくださったのです。

私は、神様の義を知るほど、「どうして神様は私を救ったんだろう」と不思議で仕様がありません。神様の義が人の正義とは比べ物にならない程高いので、その神様が私を救ってくださった愛も比べ物にならない程深いのです。

しかも驚くべきことに、神様は救うだけで終わりません。

**もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずです。**

#### I ヨハネ 2 : 29

神から生まれた者、つまりクリスチャンは、神様が正しい方であるのと同じように、正しいことを行うことができるようになります、ここで言われているのです。

### **②クリスチャンは神の子ども**

**私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。**

#### I ヨハネ 3 : 1

神様と同じ正しいことを、神様御自身が行わせてくださいます。そのために、まずすべきことがあります。それは、自分が「神の子ども」とさせていただいたことを思い巡らすことです。

「今日から自分は生まれ変わる」と意気込むセリフを、何度か耳にしたことがあります。全く家庭を顧みないでいた旦那や、勉強をさぼり続けていた学生が心を入れ替えるという時に使うセリフです。

また生まれ変わりと言えば輪廻転生、神道の教えの用語です。人は死んだら生まれ変わる。その時、生前に積んでいた徳に従って次に生まれ変わる生き物が決まるそうです。

聖書でも、生まれ変わりを教えていることをご存知ですか？

**イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」**

**ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」**

**イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」**

**ヨハネ 3 : 3-5**

聖書は、本当の生まれ変わりを教えています。それはたった一つだけで、生きている間のことです。それはイエス様を信じて、神の子どもになるということです。

**しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**

**この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。**

**ヨハネ 1 : 12-13**

「血によって」、すなわち血縁関係や家系。「肉の欲求や人の意欲」、すなわち熱心さや努力。これらによって生まれ変わることはできません。

普通、何か資格を得るためには、試験をしてその人がその資格を得るに相応しいかをテストします。ですから資格勉強という努力が必要です。会社の肩書もそうです。役職が上がるためには成績を出す必要があります。また、周囲の人とうまくやっていけなければなりません。

しかし、クリスチャンになるために、そのような試験はなかったのです。教会に熱心に通ったり、聖書を通読したりして、一生懸命頑張っただけでクリスチャンになるのではないのです。

ただ、神様が私のためにイエス様を代わりに十字架につけてくださった。今イエス様はよみがえって天におられる。神様が全て下さったことを信じる者を、神様は子どもにしてください。

私を造ってくださった神様のことなど見向きもせず、この世で自分のために生きた私なんかのために、ひとり子イエス様のいのちを犠牲にしてくださいました。神様は私を、イエス様と同じ価値があると見てくださいます。私には、イエス様のいのちの値段がついているからです。

あるクリスチャンが、「神様は王様だから、私たちは王子や王女なんだよ」と教えてくれたことがありました。神の子どもであることは、世界の王の子ども、王子と王女なのです。

この生まれ変わりよりも大切なことは、この世にありません。たった一度の、神様が用意してくださった生まれ変わりを受けなければ、人は神の子どもになることはできません。

当然ですが、このことがどれほど重大なことなのか、どれほど大きな愛なのか、イエス様を信じていない人は知りません。Iヨハネ3:1には、「世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです」とあります。私たちの一番土台にあるもの、人生を決めるものを、他の人たちは理解できないのです。「私は神の子です」と言っても、その価値が伝わらないのです。

皆様。つまり聖書が言っているのは、私たちの一番大切なものを、この世は理解できないということです。私は何者なのか、この世は知ることができないのです。そのような世界に私たちは生きています。

「私は何者なのか」という話ですが、「これがなければ私じゃない」というこだわりが硬かった時の自分を思い出すのです。

就任式の証でも少し触れましたが、私は家庭に大きなコンプレックスがありました。誰にもそれを打ち明けてはならないと思っていたことも大きな原因だと思います。私にとって、そのコンプレックスを抱えて生きることは、何よりも大事なことでした。それを言葉を使わずに表現するために役者を目指しました。そのコンプレックスが私の一番大切な事だったので、私の人生はそれに舵をとられていました。

しかしある時、神様はそのこだわりを取り去られました。それによって人生が分からなくなり、私はようやく「神の子」であることが最も大事なことなんだと知り始めることができました。

私は小さい時からクリスチャンでしたが、長らく「神の子どもである」ということが、人生で一番大事なことではなかったのです。今、それを神様が教えてくださったことに、心から感謝しています。

### ③行ないの動機

愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

#### Iヨハネ3:2

先週、大木先生が「神様は人間を神のかたちとして造られた」ことを仰っていました。私たち一人一人は、本来イエス様のような人物として造られていたのです。

しかし、罪がそれを破壊し、私たちの神のかたちは滅茶苦茶になってしまいました。私たちは神様から本当に遠い存在になってしまったのです。

**すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」**

**また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていくことはできないからである。」**

**また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。」**

**わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。**

**わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない。」**

**出エジプト 33 : 18、20-23**

栄光とは神様の素晴らしさのことです。神様がどれほど素晴らしいお方なのか見ることができるものを神の栄光と言います。素晴らしいものなら、見たいと思うものです。最も神様の栄光を現しているのは、神様御自身です。

しかし、私たちは神様の栄光のすべてを見ることはできないのです。それは、私たちに罪があるからです。太陽を直視すると目が潰れます。それで太陽の光を反射している月や、昼間の暖かさを感じて私たちは太陽の偉大さを味わいます。

同じように私たちが最も神様の栄光を見ることができるのは神様御自身を見た時ですが、私たちは罪があり、神様からかけ離れているので、神様の御顔を見る人は死んでしまうのです。

しかし、神様が人間にも見えるかたちで来てくださった時がありました。それは、イエス様です。

イエス様は、本来人間には見る事のできないきよいお方ですが、人間となって私たちの側に来てくださったのです。それは、私たちが罪から救われて、もう一度神の子どもとなり、神のかたちを取り戻すためでした。

救われた時から一人一人は、素晴らしいイエス様の姿に似せられ続けているのです。

**私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。**

**Ⅱコリント 3 : 18**

地上でも、そのように少しずつイエス様に似せられていきますが、Ⅰヨハネ 3 : 2 では驚くことが書いてあります。それは、イエス様がもう一度来られたとき、私たちはイエス様をはっきり見るので、イエス様に完全に似た者になるということです。

そのイエス様の姿は、今私たちが見ることはできない完全な神様の御栄光です。見る人が死んでしまうと言われた、あの栄光を見ると言われているのです。

今、私たちはいつか無くなる体で生き、常に罪との戦いがあります。イエス様がきよすぎるので、救われていてもイエス様を不完全にしか見られないのです。

しかし、イエス様が来られた時、私たちとイエス様を隔てる物は何もなくなります。直接会って、どのようなお方かはっきり知ることができるのです。神様がどれほど素晴らしいお方なのか、完全に知ることができるのです。その時、私たちも、イエス様のお姿に似ます。

今は罪との戦いがあり、神様の喜ばれることができないことの多い者です。神様と人を愛する完璧な律法が書いてあるのに、実行できなくて神様も人も傷つけています。

しかし、まず神様に感謝します。神様は、神様も人も愛することのできない者のためにイエス様のいのちを下さいました。敵の為に、一番大切なものを下さったのです。

そして、いつの日かイエス様と直接お会いする日に、完全にされます。神様の素晴らしさが完全に分かり、神と人を愛する日々だけが続いていくのです。

**キリストに対するこの望みをいなく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。**

**1ヨハネ3:3**

この、いつの日かイエス様とお会いしたときに完全にされる。それがクリスチャンの清い行ないの動機なのです。

「清さ」とは、正しい行ないのことです。罪から離れ、神様の喜ばれる行いをするのです。本当は、清くなることは苦しく、また不可能なことです。自分の力で心から変わる人はいないからです。

しかし神様は、それを人の努力ではなく、将来イエス様と会える希望によって、喜んでできるようにしてくださったのです。イエス様が、迎えに来てくださるのです。この喜びこそ、クリスチャンの特権です。

聖書は教会を花嫁に例えます。イエス様の花嫁です。

**夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**

**キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、**

**ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。**

**エペソ5:25-27**

今、私たちは傷だらけです。欠けがあって、しみがあり、とても綺麗な花嫁ではありません。しかし将来、イエス様ご自身が、私たちを完全にしてくださり、ご自分の花嫁にしてください。今、私たちはイエス様と結婚することが決まった婚約者なのです。

もし花嫁となる人が、花婿と結婚する日を楽しみにしていたら、自然と普段から花婿のことを考えてしまいます。花婿に似合う人になろうとするのではないのでしょうか。花婿の価

値観を大事にし、ダイエットして、貯金をためて、身だしなみに気を付けるのではないで  
しょうか。しかも、その苦勞はしたいからしているの、勞苦に感じないと思います。  
逆に、もし花婿と結婚する日を何とも思っていないければ、そうはなりません。花婿のこ  
とを考えてウキウキすることもなく、続けてきた自墮落な生活を続け、悪い所も直す必要も  
ありません。理由がないからです。

そのように、クリスチャンであるということは、イエス様の婚約者であるということなの  
です。楽しみにする特權をもらっているのです。  
ですから、誰かに言われたからとか、しなければという強制意識ではなく、婚約者の特權  
として自然と清さを求めていってしまうのです。

しかも、私たちの花婿は、人間の花婿とは格別です。イエス様は自分のいのちを捨てて私  
たちを滅びから助け、悪い生き方しか知らなかった者を、良い生き方へと変えてくださっ  
た方だからです。その方が将来、完全に罪と欠けを取り去ってくださると言うのです。本  
当に感謝します。

時が来れば、花婿であるイエス様ご自身が、私たちを迎えに来てくださいます。  
その日まで、花嫁に相応しく、イエス様の喜ばれることを追い求めつつ、楽しみに待ちた  
いと思います。

### 暗唱聖句

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のあ  
る者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいま  
した。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え  
物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4：7-10

【説教者:堺希望伝道師】